

若竹

第15号

昭和60年2月15日
発行

〒790 松山市道後
桜谷町173
愛媛県神社庁内
愛媛県神道青年会
☎0899-21-7875

奉祝 天皇陛下御在位六十年

新春にあたりて

愛媛県神道青年会々長

清家貞宏



謹んで新年の御祝詞を申し上げますとともに会員諸兄の弥益々の御活躍と御多幸を祈念申し上げます。昨年神青協創立三十五周年記念行事を始め、四国地区神道行法錬成会、観月神楽の夕べ等、対外的な大きな行事が数々ありましたが、会員諸兄の御協力御支援を賜り無事終了

出来ましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、本年は天皇陛下御在位六十年という誠に芽出度の慶賀すべき歳であります。各御社頭に於かれましても国民精神の昂揚を図るべく奉祝行事が執り行わなければなりません。

昭和六十乙丑年という歳ですが、乙は中春の家で、草木の種が発生の氣を受け得に発生せんと皮を破ると云えども未だ立ち伸んとして地上に芽を出すことはなく、丑は一生が結び終る意であり、微陽を受け萌せども猶陰氣強く、得にこれから芽を出さんとする象であり、次代の生成へと繋がつています。このように本年は内に生命力を貯へ、次の生命の生成に発展に備えんとする歳であります。あたかも「発生期の現代神道」と云へる訳であり、三月五・六日にはそれを中心として島根県の出雲大社に於て中央研修会が開催されます。各会員にはふるって参加していただきたいものです。

愛媛県神道青年会も、再発足以来先賢諸氏の御尽力のもとに軒余曲折を経ながらもここまで大きく成長してまいりましたが、これを維持発展させて行くには非常に大きな努力が必要であります。昨年は対外的な行事に追われ、内の活動が余り出来ま

せんでしたので、本年は乙丑の歳にふさわしく、次代の飛躍に備へ、内に大きな力を貯えるべくいろいろな親睦行事、各研修会を中心に活動いたす所存であります。何はともあれ会の発展は会員諸兄の積極的参加如何にかかっております。参加率の低下は即青年会の無気力化につながり衰退化の一途をたどらねばなりません。最近の諸行事に新入会員が意識を持って参加してくれていることは真心強い限りです。今後とも一人でも多くの方の御参加をお待ちしております。

最後になりましたが、常日頃当青年会に暖かい御助成、御支援を賜っております県内神社、諸先輩方に厚く御礼申し上げますとともに今後とも尚一層の御協力を御願ひ申し上げます。新年の御挨拶といたします。



神青協創立三十五周年

記念大会に参加して

柳原 宰

神道青年全国協議会は昭和二十四年に創立されて今年で三十五周年を迎えるに当り、その創立三十五周年記念大会が、創立記念日にあたる六月二十三日、東京信濃町の明治記念館で開かれ、又それに併せて二十一日、野球大会が開催された。本県からは清家会長以下九名が参加、全国から会員、OB、神社関係者等、三百八十名余りが参加して盛大に祝った。我々愛媛神青は二十一日の夜、新宿のワシントンホテルに集合、明るる日の野球大会に備え、四国神青会員で懇親会を行ない、会員同志の団結、士気の高揚等を図った。

明けて二十二日、記念の野球大会が明治神宮外苑グラウンドで催され、全国十ブロックの代表選手達による熱戦が繰りひろげられた。この日は一日中小雨に煙るあいにくの天候となったが、我が四国ブロックチームは、前日の懇親会が効を奏したのか技能の劣勢を応援でカバーせんとばかりに、一致団結した応援団攻勢、

ヤジの連発ですさまじい快進撃であった。

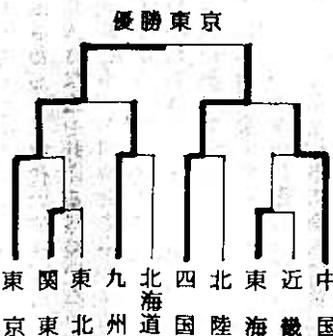
まず一回戦不戦勝後、二回戦では前回優勝の北陸チームを矢野副会長香川の選手の継投と耳をつんざく様な黄色い声援で圧倒して退け、続く準決勝では、先の勢いのり中国チームに逆転勝ち、到頭決勝まで進出してしまった。決勝戦では、それまでに力を出し尽くしたのか、選手全員氣勢が上がらず、のらりくらりと投げ東京チームの投手に巧くかわされ、惜しくも準優勝に甘んじてしまった。

しかし、我が四国チームの名前を全国の会員に一躍知らしめた事はあつた。この後、明治記念館で懇親会が催され、愛媛神青会員は渋谷にて夕食を取り、準優勝の余韻にひたりながら、三々五々連れ立って、夜の街へと出かけて行った。二十三日には記念大会が行われ、第一部の記念式典では、型通りの次

第が終わり、記念表彰に移った。今回の表彰は本部役員経験者各地区から推薦された功績者等で、我が愛媛の長曾我部前会長も神青協副会長としての活躍や長年の功績により表彰せられたが、我々の先輩の全国規模での表彰という事で、盛大な拍手の中、会員各位感激の一場面であった。

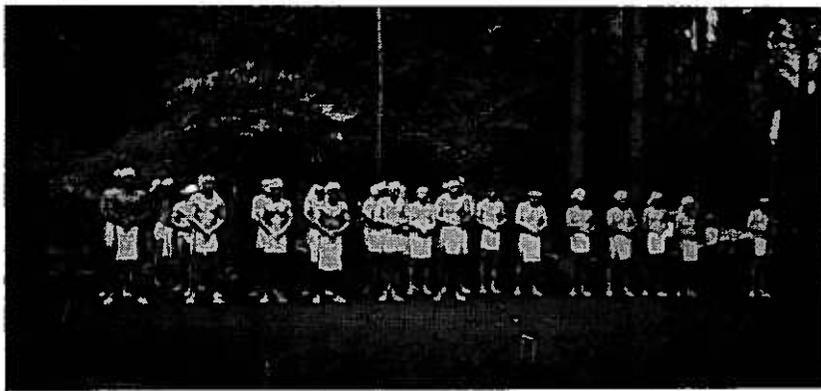
続く第二部は記念講演で、野球評論家でおなじみの野村克也氏が「敵は我に在り」と題して講演。野村氏は、「自分は野球を通して人間形成をしてきた。現役引退の時、今後は「生涯一捕手」の一兵卒として生きる事を決意した。結局最大の敵は自分自身であったことを知った」と語り、それに打ち勝つには「自分の限界を知る事であり、さらにそれを越えようとするところから本当の戦いが始まる。」と述べ、球界の裏話を引用しての洒落な語り口は我々に深い感銘を与えてくれた。

第三部は祝宴で、各々帰りの時間を気にしながらの懇親会であったがなごやかな裡に宴が進み、又来年必ず会おうと誓いながら、それぞれ帰路についた。愛媛勢は連日の余韻さめやらず、羽田にて再び祝宴を開いたが、飛行機出発のアナウンスに促されながら、一路松山へと飛立った。



四国四県神道行法鍊成会報告

佐藤 豊



例年実施されている四国四県神道行法鍊成会は、今回で第九回目を迎える中で、四国四県各地より青年神職有志と一般の方も含め多数参加し厳肅に二日間の日程を終えた。この鍊成会は禊・鎮魂の行を通して神青会の相互の交流と親睦を計る為当県より実施されたものです。愛媛県では、前回に引き続き上浮穴郡美川村面河溪流の一角に鎮座する川崎神社（梅木匠人宮司）を会場として八月二十七日・二十八日の二日間県神社庁より波蘭事務局長、又会場支部である田野久万支部長のご来席を賜わり激励の言葉を頂戴した。閉会の後香川県柘植宗尚宮司より禊の要訣と心得を又鎮魂の行法について佐藤豊宮司より説明があった。面河溪流の冷たさは夏場でも数分と水中におれない。残暑が続くとはいえ晩夏に入った八月下旬の水の冷たさは実に身に食い入る。一瞬の気の緩みは非常に危険だ、一同鳥船の行も一段と力が入る。川に入り大夜詞大合唱後、

岸辺にあがったその杜快さは何ともいえない。ありがたい限りだ。その清々しさがまだ抜ききらないうちに拜殿に座し鎮魂の行に入った。

過去実施する中で今回程全員が一つにまとまり且高度な布瑠部の神業が出来た事は、偏に今迄の蓄積の賜といえよう。参加者一同心身共不調もなく次回での再会を誓い合った。次期当番県の徳島県からは、第十回の記念すべき開催にむけ期待にそうよう意欲ある意見発表がなされた。来年度十回目を迎えるに当り当研修会を思う時、第一にあげなければならぬ事は、各県道彦養成に一躍を担う事となり今後の教化体制に四県共礎石を築いた点といえよう。

又今回の如く息の合った研修会に成長した理由に参加者が連続的に出席されている事が指摘される。従って今後初参加者にとってもやりやすい状況といえます。願わくば、更に四県参加者の掘野を拡大したい。そもそも鎮魂における魂あるいは魂たまといふのは何か。一般的アプローチから観ると、「超自然的な力を意味した」又「抽象的な霊的な力を、古代人は魂（タマ）と呼んだ。古代日本人を支配した超自然的な靈格のうちで靈（チ）というのが最も古いそして魂（タマ）がこれに次ぎ、神

が最も新しい。」（時代別国語大辞典上代篇）、次に「魂（タマ、タマシイ）は広く動物・植物などに宿り心の働きをつかさどり、生命を与えている原理そのものを魂と呼んだ。魂は体を離れて存在し、又体が滅びたのちも存在するかのようにならされている。」（日本国語大辞典）、又「魂は未開社会の宗教意識の一つであって、最も古くは物の精霊を意味し、人間生活を守りこれを助ける働きを持っていた。いわゆる遊離魂あるいは遊離靈の一種で、人間の体内から抜け出して自由に動き回り外部で他人の魂と出会う事も出来た。又人間の死後も活動して人々を守り、従って人々はこれを傷つけないように努め、又これを体の中に結びとめようとした。この魂という生命の原理がその力を衰微させないようにタマつりという行事を時たま行うことによりその活力を呼び覚まし、それを維持したのである。」（古語辞典、岩波版）これらの説明を読むと魂（タマ・タマシイ）というものの一応の觀念が理解されよう。鎮魂にはわが国では伝統的なものとして「古事記」に記載されているもので、女が神がかって、手に笹の葉をもち、頭に葛の葉をまき、宇氣槽うけさなという伏せた桶のようなものをドンドンと踏みと

どろかす。そうする事によって、その宇氣槽の鳴るドンドンという勇壮なあるいは神秘的な音とともに魂がどこからかやって来てそれがこの人のなかに入りこむ。そうするとその人が元気を回復して生き生きとしてくる。弱っていた魂がよみがえってくる。こういう鎮魂の呪術が伝えられている。同時に宇氣槽をドンドンとたたくことによって活力を回復した魂、あるいは外来魂を今度は木綿糸などによってその人につなぎとめる。その糸をとおして魂がその人のなかに入り込みその人を生き生きとよみがえらせる。今日これらの鎮魂祭を齎行する神社に、西寒多神社(大分市)、阿夫利神社(神奈川県伊勢原町)、物部神社(島根県安濃郡川合町)、坐摩神社(大阪市東区渡辺町)、他に石上神宮(奈良県天理市)、弥彦神社(新潟県弥彦)等がある。



宮崎神青を迎えて

御田村 俊 一

八月十七日の夜、宮崎神道青年会北方領土返還キャンペーンキャラバン隊が、最後のキャンペーンプロックである四国来訪の為松山に上陸した。清家会長をはじめ数人の先輩方とこのキャラバン隊を出迎え翌日の行動を供にすることが、私の愛媛神青会員としての初仕事となったのだが、個人的な思い入れを含めて私はこの仕事に着いたのである。それは「歓迎」と同時に「再会」の機会を与えて頂いたからなのだ。私は、今春四月念願としていた伊豫豆比古命神社に奉職させて頂き、併せて愛媛神道青年会の一員とさせて頂いたのだが、是れ以前の四年の間、宮崎県日南市に鎮座坐す鶴戸神宮に奉仕しその間宮崎神青会に籍を置き、種々様々な催事、活動への参加を通じて多くの良き先輩、友人を得ることが出来た。神職としての第一歩を踏み出し、多くの体験、想い出を積み重ねた。宮崎神青会に復帰と同時に再会出来るのであ

る。胸躍らぬ訳が無かった。では、そのキャラバン隊松山上陸の模様を簡単にスケッチすると。八月の一夜、太刀魚釣りの姿まばらな八幡浜港の岸壁に、臼杵発のフェリーが着岸し、大きくその船首を裂いて飲み込んでいた車を吐き出していた。その中に周囲を圧倒しながら下船してくる数台の車の一群。セダン、バン、ワゴンと車種こそ異なるが、全車各々車上四方に看板、スピーカーを備え、高く掲げられた日の丸は、港の風に力強く翻りかいていた。そして、その車中には、ベージュのジャンパー、紺のストラックス、白い運動靴と揃いの服装で統一した面々が乗っていた。白地に黒く太い文字で、「北方領土早期返還実現」と書かれた看板が、その様な人々と相俟ってまるで意志を与えられたかの如くに誇らしく感じられてならない。宮崎神道青年会・北方領土返還キャンペーンキャラバン隊、上陸の勇姿である。一旦、港前に車を止め、降りて来る

キャラバン隊員達と交わす私の挨拶には、親しみと供に懐かしみが自然に込められてくる。港を後に、歓迎の裏席が設けられ宿泊先でもある八幡神社に迎う。席に着き改めて周囲を見回せば、そこには真黒に日焼けした顔、顔、顔。懐かしさが再び込み上げて来る。話は尽きず、暑くも心地よい夏の一夜が過ぎていった。翌日は、晴天に恵まれ早朝よりキャンペーン活動を始める。この活動内容の詳細は割愛させて頂くが、午前六時八幡浜に始まり、午後四時川之江に至る迄、宮崎・愛媛神青会のキャラバン隊は、終止精力的にキャンペーン活動を続けた。車上のスピーカーから響く肉声による宣揚文句は途切れることが無かったのである。以上、やや思い入れが込めるキャラバン隊上陸記であったが、これを機会に愛媛と宮崎両神青の絆がより一層深まることを願わずには居られない。海を境にはするが、地勢的にも近い距離にある。密な交際は可能だと信じる。



「広島県神道青年会を迎えての」

親善ソフトボール大会

川原洋之

去る8月8日、伊予市下三谷厚生

年金保養グラウンドにて、神道青年会主催による親善ソフトボール大会が行なわれた。これは日頃より県外神青会との親睦、交流を深めんとする愛媛神青会諸志の積極的な姿勢により実現したものであって、当日は好天にも恵まれ今回招いた広島県神青「シュラインチーム」との試合にはダブルヘッター中、数々の好プレー珍プレーが続出し、白熱したプレーと相まって本大会の主旨を十分に得たものとなった。

また特に西条市石鎚神社よりは、紅一点、浜本巫女嬢の参加もあり。打率十割、エラー十割の絵に描いたようなプレーが選手を和ませた。本塁クロスプレーにて肘を負傷された田内様、その折は本当に御苦労様でした。

尚、試合結果は二試合ともに我が愛媛神青チームの借敗であったが、さて広島シュラインチームの各位殿

いかが思われますかな……。

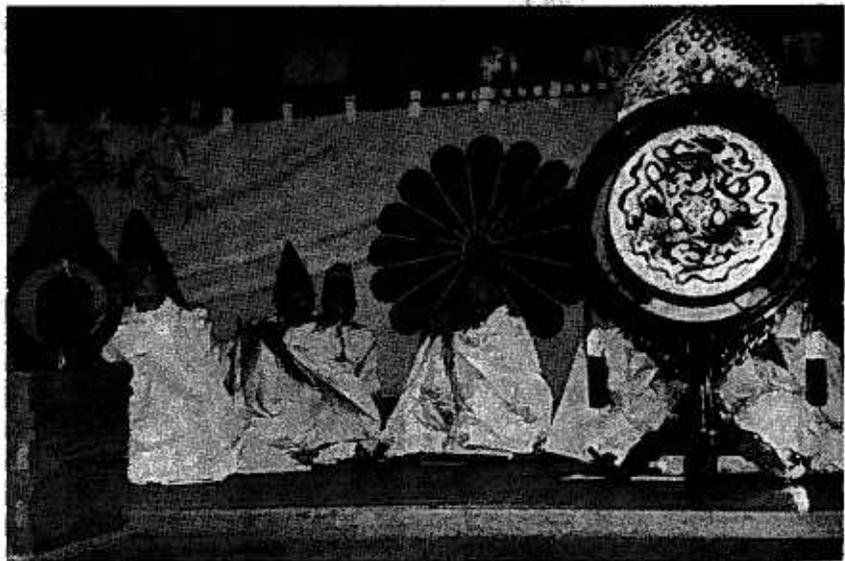
何はともあれこの度ははるばる広島より御来県下さったシュラインチームの皆様方はじめ参加者全員の御協力に深く御礼の意を申し上げますとともに、今後一層の親睦、交流の進まん事を切に願う次第である。

尚、試合後市内に於いて懇親とともに神青協で全国表彰を受けられた伊豫豆比古命神社権祢宜長曾我部延昭氏の祝賀会が行なわれたが、長曾我部氏の増々の御活躍と御健勝、御発展を一同心より祈念申し上げ、盛会と成し得た。



観月神楽の夕べを開催して思う

真鍋和敏



大宮八幡神社は氏子数三百十戸の小さなお宮ですが、氏子の皆様の信仰の昂揚にどのような事をしたらよいか日頃から頭を痛めておりました。昨年第一回目の観月祭が椿神社において盛大に行われました。この観



月神楽を上野の里の大宮八幡神社で行われたらと思う気が強く、なんとか開催出来ないものかと思っていたやさきに八月の半ばに分会で観月神楽の話が出まして、今年はどこで開催するかどうかの話をしていたところ神職の皆さんより、君の所でやらないかと話もち上がり、開催したい気持はあるけれど、氏子の皆さんが集ってくれるかが心配でした。決定した時には心もはずみ、その夜は嬉しいやら不安やらで眠ることも出来ませんでした。

翌日、早速獅子舞の青年会の皆さんに集ってもらい、大宮八幡神社でこれほどの大行事は今までもない行事で有ることを理解していただき、夜遅くまで話し合いました。日数もあまりないので総代さんにも協力をしていただき、朝の挨拶は「お早うございます。」の代わりに「九月九日はお宮さんでお神楽がありますね。」の言葉を加えていただき、だんだんに盛上ってゆきました。

私も町内を何度も廻り氏子の皆さんに九月九日には氏神様には是非参拝して下さいと声をかけました。氏子の方々からも「何かお手伝いさせて下さい。」の言葉や電話もたびたびあり、当日を楽しみにしておりますよと言ってくれました。

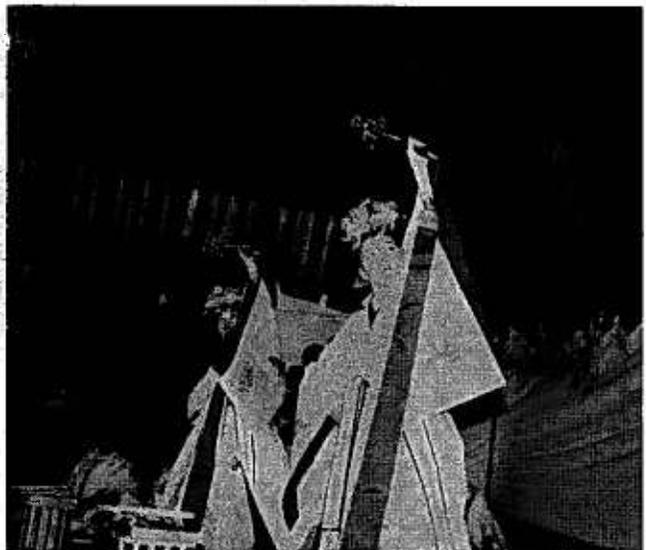
いよいよ当日朝六時総代さんや氏子の皆さんが境内の掃除に又婦人会の皆さんで売店を出す準備などにおわれていました。

その日は朝より小雨が降ったり止んだりしておりましたが、夜まで降られるとこまったなあと心配しておりましたところ一時間前にはすっかりあがり、拜殿前には庭火が焚かれ厳かな雰囲気漂うなか、開式太鼓でスタート、悠久の舞続いて雅楽が演奏され、笙、ひちりき、竜笛、琴、楽太鼓、かつこ、などの独特のかん高い音色が境内に響きわたり「みやび」の世界へ誘った。この中には上野町の獅子舞も加わりもり上がった。氏子の皆様も時のたつのも忘れて楽しんでくれました。上野町の人口の半分は観に来て下さいました。大成功に終わりました。

翌日からは氏子の皆さんより顔を合わすたびに喜んでいただき、本当に神職で有ることを誇りに思い、心から神職になって良かったと思えました。今後もし子との出会いの機会をもって神社と氏子の融合をもちたいと思います。

ぜひこのような機会を他の神社も持っていただきたいと思えます。一つの行事を行うことにより心と心のふれあいを強く感じました。

終りになりましたが神道青年会並びに友情出演の香川の金刀比羅宮の皆様そして参列していただいた各神社の宮司様心よりお礼申し上げます。
第三回目の会場は、新居浜の一宮神社で、開催の予定です。御成功をお祈り申し上げます。



お願い!!

青年神職年会費は四〇〇〇円になっておりますので、未納の方は至急納付願います。会費は会運営の基本となるものですのでよろしく御協力
の程お願い申し上げます。

高市俊次氏

第9回歴史文学賞受賞



このたび本会会員伊予郡砥部町麻生三島神社宮司高市俊次さんが、新人物往来社主催の第9回歴史文学賞(花評者石山)が受賞されました。おめでとうございます。今後共益々のご活躍をお祈り申し上げます。

昭和59年度活動報告

- 1月21日
新年互礼会(新居浜)
出席者17名
- 2月21・22日
神青協中央研修会(京都)
清家、湊、長曾我部
- 3月28・29日
四国ブロックキャンペーン(高松)
清家、矢野、重松、本多、池内、柳原、井上
- 6月23・24日
神青協35周年記念大会(東京)
清家、矢野、重松、本多、池内、柳原、湊、三輪田、長曾我部
- 7月22日
雅楽講習会(護国神社)
清家、田窪、池内、田内、重松、堀、都子野
- 8月8日
広島神青交流ソフトボール大会
(伊予市厚生年金グラウンド)
- 8月27・28日
四国地区神青櫻練成会
(美川村河崎神社)
清家、佐藤、柳原、湊、片岡
- 9月9日
観月神楽の夕(松山大宮八幡神社)
清家、矢野、重松、本多、越智、大野、池内、柳原、田内、堀、都子野、三輪田、三田村、田岡、久保、長曾我部、日野、沼崎、巫子3名、金刀比羅宮3名
- 10月30日
役員会、初詣 スター配送(神社庁)
清家、重松、本多、池内、湊、柳原、佐藤
- 11月25日
三島由紀夫慰霊祭(椿会館)
清家、池内、田内、都子野、三田村、長曾我部

昭和59年度会費納入者氏名

清家 貞夫、矢野 寛、重松 正洋、本多 和洋、池内 公和、柳原 照彦、湊 豊、佐藤 久、田窪 史、田上 忠史、井内 逸和、三輪田 長貞、山下 幸志、武智 宣往、阿部 睦雄、浅海 宜英、越智 静治、別府 一司、検垣 壮次、井関 五十鈴、御田村 俊一、曾我部 英司、川原 英勝、野口 光比古

昭和58年度 歳入歳出決算書

歳入合計 金1,514,747円
 歳出合計 金1,354,180円
 差引残高 金160,567円(次年度へ繰越)

歳入の部

項目	本年度決算	前年度予算	比較		附記
			増	減	
1 会費収入	203,000	300,000		97,000	
2 助成金	150,000	250,000		100,000	神社庁助成金10万, 時局対策費5万
3 寄附金	516,000	400,000	128,000		
4 雑収入	77,000	11,253	65,747		「観月神楽の夕」御祝儀
5 積立金繰入	300,000		300,000		
6 繰越金	268,747	268,747			
合計	1,514,747	1,230,000	493,747	197,000	

歳出の部

項目	本年度決算	前年度予算	比較		附記
			増	減	
1 会議費	278,070	250,000	28,070		
2 研修強化費	129,740	100,000	29,740		四国地区キャンペーン大会, 四国地区青年・氏青研修会, 全神協中央研修会
3 事業費	169,350	200,000		30,650	初詣ポスター印刷代他
4 調査費	0	0			
5 広報費	6,000	180,000		174,000	新年互礼広告料
6 事務費	83,790	80,000	3,790		
7 備品費	6,000	10,000		4,000	
8 旅費	288,560	250,000	38,560		全神協中央研修会, 全神協役員会他
9 慶弔費	11,830	20,000		8,170	柳原・堀氏祝電他
10 負担金	375,680	120,000	255,680		全神協特別分担金, 四国地区キャンペーン, ユニホーム他
11 雑支出	5,160	5,000	160		
12 予備費	0	15,000		15,000	
合計	1,354,180	1,230,000	356,000	231,820	

別途積立金 定額貯金 600,000円, 普通貯金 4,941円 合計 604,941円

監査報告

上記各項監査の結果相違なき事を認めます。

監事 柳原 宰 ◎
 監事 都子野 清彦 ◎

金拾萬円也 伊予豆比古命神社 長曾我部 三輪田 元 亮 勝 殿
 金五萬円也 和靈神社 長曾我部 三輪田 元 亮 殿
 金貳萬円也 石鎚神社 武智 昭 典 殿
 金貳萬円也 愛媛県護国神社 正岡 定 幸 殿
 吹揚神社 田 程 多理甫 殿
 柳原 磐 根 殿
 神社庁久万支部 柳原 磐 根 殿
 神社庁宇和山支部 田 程 多理甫 殿
 菅 義 文 殿
 阿 府 義 文 殿
 別 府 義 文 殿
 沼 崎 守 昭 殿
 平 田 茂 光 殿
 小 池 稜 威 殿
 池 内 水 敏 殿
 野 口 光 敏 殿
 網敷天神社 菅 義 文 殿
 天 神 義 文 殿
 龍 神 義 文 殿
 姫 坂 守 昭 殿
 玉 生 八幡神社 平 田 茂 光 殿
 天 神 義 文 殿
 加 茂 神 社 池 内 水 敏 殿
 伊 佐 木 波 神 社 野 口 光 敏 殿

神青協創立三十五周年記念大会開催に際しましては、神社関係者の皆様には、格別なる御助成賜わり厚く御礼申し上げます。

神青協35周年記念大会
 寄附助成者御芳名

昭和59年度 予 算

歳入の部

項 目	本年度予算	前年度予算	比 較		附 記
			増	減	
1 会費収入	300,000	300,000			
2 助成金	250,000	250,000			神社庁助成金 15万 時局対策費 5万 神政連青年行動隊 5万
3 寄附金	500,000	400,000	100,000		
4 雑収入	49,433	11,253			
5 繰越金	160,567	268,747		108,180	
合 計	1,260,000	1,230,000	138,180		

歳出の部

項 目	本年度予算	前年度予算	比 較		附 記
			増	減	
1 会議費	250,000	250,000			
2 研修教化費	120,000	100,000	20,000		神青協35周年大会参加 四国ブロック大会・その他
3 事業費	200,000	200,000			初詣ポスター・その他
4 調査費	0	0			
5 広報費	150,000	180,000		30,000	若竹発行
6 事務費	70,000	80,000		10,000	
7 備品費	10,000	10,000			
8 旅費	300,000	250,000	50,000		
9 慶弔費	15,000	20,000		5,000	
10 負担金	130,000	120,000	10,000		全神協四国ブロック分担金
11 雑支出	5,000	5,000			
12 予備費	10,000	15,000			
合 計	1,260,000	1,230,000	80,000	50,000	

歳入合計 1,260,000円

歳出合計 1,260,000円

昭和59年4月7日

愛媛県神道青年会会長 清家貞宏

網敷天満神社	金五疋円也	潮早神社	金六疋円也	三島神社	金七疋円也	三島神社	三島神社	三島神社	森正八幡神社	伊豫稲荷神社	国津比古命神社	大宮八幡神社	高忍日売神社	徳川神社	伊予豆比古命神社	日尾八幡神社	波賀部神社	桑原八幡神社	井手神社	大宮八幡神社	三嶋大明神社	日招八幡神社	雄郡神社	阿沼美神社	三島神社	湯島神社	金老萬円也
川栄太郎殿	浅海宣英殿	高市保広殿	神社庁北条支部	神社庁周桑支部	神社庁東予支部	福永久幸殿	松浦文大郎殿	越智大介殿	野口寛則殿	星野暢広殿	井上忠衛殿	和氣須賀雄殿	後藤正健殿	武智宣往殿	重松守文殿	三輪長貞殿	武智圭五殿	石丸金五殿	横田政昭殿	真鍋和敏殿	武智正素殿	玉井正健殿	高市逸和殿	田内隆三殿	能田隆誠殿	鳥谷長誠殿	

金五阡円也	石清水八幡神社	芥川利夫殿
大井八幡神社	櫛部浄文殿	
大浜八幡神社	檜垣次殿	
別宮大山祇神社	高田一成殿	
樟本神社	別府一司殿	
東雲神社	田内逸武殿	
白山神社	高市守久殿	
伊豫岡八幡神社	武智調龍殿	
淨嶋神社	相原正龍殿	
宇氣洲神社	相原正龍殿	
三嶋神社	越智静治殿	
德威三島宮	別府頼雄殿	
天満神社	武智成彬殿	
三奈良神社	森智正史殿	
築島神社	渡辺正己殿	
湊三島神社	渡辺定詮殿	
阿沼美神社	大内信磨殿	
金刀比羅神社	波爾倫敬殿	
金刀比羅神社	山下幸伸殿	
正八幡神社	重松讓殿	
生石八幡神社	中西明殿	
金刀比羅神社	大谷伸二殿	
日吉神社	都子野清彦殿	
高家八幡神社	都子野政子殿	
金四阡円也	野口光比古殿	
大山積神社	森東洋司殿	
金貳阡円也	五柱神社	

金拾萬円也	伊予豆比古命神社	長曾我部勝殿
金五萬円也	石鎚神社	武智昭典殿
八幡神社	八幡神社	阿部康夫殿
金參萬円也	八幡神社	清家貞宏殿
一宮神社	一宮神社	矢野哲夫殿
金貳萬円也	姫坂神社	沼崎嘉吉殿
金壹萬円也	波賀部神社	神社庁喜多支部殿
大宮八幡神社	吹揚神社	武智圭邑殿
加茂神社	三島神社	和氣須賀雄殿
池内克水殿	越智大介殿	田窪多理甫殿
清家貞雄殿	神社庁小田支部殿	池内克水殿
神社庁久万支部殿	神社庁宇和山支部殿	清家貞雄殿
渡辺久夫殿	高橋三郎殿	矢野哲夫殿
高橋三郎殿	龍神神社	清家貞宏殿
橋新宮神社	金五阡円也	沼崎嘉吉殿

昭和五十九年度 寄附助成者御芳名

橋 惠依欄二名神社
馬越政應殿
高市慶久殿
神社庁伊予支部殿
金貳阡円也
宮内神社
真鍋次郎殿

